

第2学年 日本語学級「話し合いをしよう」(オンライン授業)

トピックのねらい	○互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなげることができる。 ○身近なことから話題を決め、必要な事柄を選ぶことができる。
日本語の目標	○話し合いに使う言葉を覚えて使うことができる。 ○自分の言葉で意見を言うことができる。
関連	教科・単元 国語科「そうだんにのってください」A 生活科「MJSの1年生にカモテ料理をしようかいしよう」「日本の2年生にフィリピン料理を伝えよう」B
	くらし・行事 クリスマスなどの年中行事C
主な学習活動	① 話題を基に司会をする。 ② 話題を基に意見を言う。 ③ 司会は意見をまとめ結論を言う。

教材・教具：ノート

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント 支援「○日本語 ◇教科 *バイカルチュラル視点」	関連
1	1 「そうだんにのってください」の自分の話題を確かめる。 ・クリスマスに歌う歌を知りたい。 ・兄弟のプレゼントは何にしよう。	◇国語の学習で書いた自分の話題を確かめる。 「どんな話題を書いたか確かめましょう。」 *話し合い＝英語で DISCUSSION	A C
	司会になって話し合いをすすめよう		
	2 交代しながら話し合いをするために司会を決める。	○順番を決め、話し合いをすることを伝える。 「司会の順番を決めましょう。」 *司会＝英語で HOST	A
	3 司会の人のもつ話題を中心に話し合いをする。 (例) クリスマスの日に歌う歌 「わたしは、赤鼻のトナカイを歌おうと思っています。ほかにいい考えはありませんか。」	◇○司会の人を話題を確認し、その話題にそって話し合いをさせる。時間を決めて行うことも確認する。 「司会の人を話題は何ですか。」 「その話題の解決策をみんなで考えましょう。」 「時間は、5分です。」(タイムキーパーは指導者) ◇「私は一しようと思っています。ほかにいい考えはありませんか。」等というモデル文を提示し、必要に応じて活用する。	A B
	4 話し合いが終わるごとに、よかったところを話し合う。	○話し合いでよかったところを伝え合う。	A
	5 交代して話し合いを続ける。	○全員が司会になり、また全員が答える人になることで、二つの立場を経験できるようにする。また、各自のペースを大事にしながら、お互いサポートしながら協力して進めていくよう声をかける。	A B
6 学習をふりかえる。	◇本時の学習を振り返ることができるよう、がんばったことやできるようになったことを発言する時間を作る。		

はっぴょうしゃ(しかい)【時間5分】

(はじめ)

「これから、わたしのはっぴょうをはじめます。」

(中)

「わたしは—しようと思っています。ほかにいい考えはありませんか。」

(手が上がったら)「〇〇さん」

(手があがらなくても)「〇〇さん、どうですか。」

(おわり)

「わたしは、—しようと思います。

みなさん、ありがとうございました。」

一人一人みんなの前で発表する際は、すぐに内容に入るのではなく、「はじめます」と言ってから発表することや、最後に「おわります」と言って終わることを確認した。

在籍学級でも繰り返し使ってきたことで、言い慣れてきている。

話し合いをどうするかを学んだあと、生活科で「MJSの1年生にカモテ料理をしようかいしよう」その後、「日本の2年生にフィリピン料理を伝えよう」という学習を行った。

自分が書いた内容を友達に紹介し、アドバイスをもらう際、「〇〇さんどうですか」と意見を求めることができる子が多かった。うまく言えない子がいると、周りの子がサポートする等、みんなで一緒に考えていこうという姿が見られた。

～話し合いを重ね、発表内容完成！

日本の2年生の笑顔を見て、話し合いの成果を感じるMJSの2年生！～

【シニガンスープ】



発表の日までにシニガンスープやトゥロンを各自宅で調理し、本番では、写真を使って紹介した。酸っぱいスープと知って驚いていた。

【カモテキュー】



「カモテはフィリピンのさつまいものようなおいも」と紹介し、伝え方を工夫することができた。

【ピロピロ】



ピロピロという名前に、日本の2年生が反応していた。モチやココナッツミルクが入った甘いスープということで更に驚いていた。

【レチョン】



家でも作ることができるレチョンがあると知り、MJSの2年生も驚いていた。

令和3年度 第2学年 日本語学級「話し合いをしよう」ふりかえり

児童 の 様子	<p>《日本語学級での様子》</p> <p>【1 時間目】</p> <p>○出てきたのは、兄弟の誕生日のプレゼントをどうするか。両親の誕生日に何をすればいいかというものであった。この辺りは、他の2年生と変わらない発想であった。</p> <p>▲相談にのってください。という問いかけを考える行為が難しかったようだ。</p> <p>▲相談すること＝話題の提供（これからすること・生活上の悩み・学習のこと）を考えることから始めた。本来、彼らは、うまく日本語で表現することが難しい場面に多く接しているはずだが、それについての悩みは発想にない様子であった。したがって、教科書と同じような設定で考えることとなった。</p> <p>《在籍学級での様子》</p> <p>○日本語学級で悩んで作り上げた相談事をそのまま話し合いの場で言うことができた。</p> <p>○在籍児童もまた兄弟の誕生日にどうするかというものが多かったため、答える時も日本語学級で手に入れた答えをすすんで言うことができた。</p>	
	学習活動 案 日本語支援	成果
について	時間目 課題	<p>△本来なら、自分たちの日本語能力をどう高めたらいいかという相談事が出てきたら面白かったのだろうが、そう考えるのは指導者側であって彼らには身近な内容の方が良かったのだろう。ただし、皆似たような内容ばかりになってしまった。</p> <p>→運動ではどうか、生活の中ではどうか等のアドバイスをもってしてもよかった。</p>